

横浜市立都筑小学校 令和5年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
「学ぼう つながろう やりとげる 都筑の子」	<問題発見・解決能力> <コミュニケーション能力>

(2) 中期取組目標

中期取組目標
組織的コミュニケーションとチームワークで「誰もが安心して豊かに生活できる学校づくり」を目指します。 ・主体的に学習に取り組み、互いに学び合いながら、問題を解決していく力を育てます。(問題解決力・活用する力) ・人とのふれ合いや関わり合いを大切にされた教育活動を展開し、互いに認め合い思いやることのできる心を育てます。(自己肯定感) ・心身の健康のために、進んで運動したり、毎日の食事や生活習慣を大切にしたりする力を育てます。(健康体力) ・地域の特色や地域教材を生かした教育課程を工夫し、まちの「ひと・もの・こと」とつながる体験的な活動を通して、まちを大切にすることを育てます。 ・YICAを核としたコミュニケーション活動を推進し、異なる文化や考え方を尊重することができるようにします。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①重点研究である算数を中心に、問題発見・解決能力の育成につながる授業づくりを行う。②各教科において、相手を意識して積極的にコミュニケーションを図る学習展開を工夫する。③タブレットなどの情報機器を活用できるようにし、互いの思いや考えを伝え合う場面を設定し、主体的・協働的な学び合いのある授業作りを行う。④学年担任という意識で児童と向き合い、交換授業や教科を分担して指導していくことで専門性や授業力を高め、児童の学力向上を目指す。

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

令和3年度 学力

生活意識

学習意識

(1) 学力の概要と要因の分析

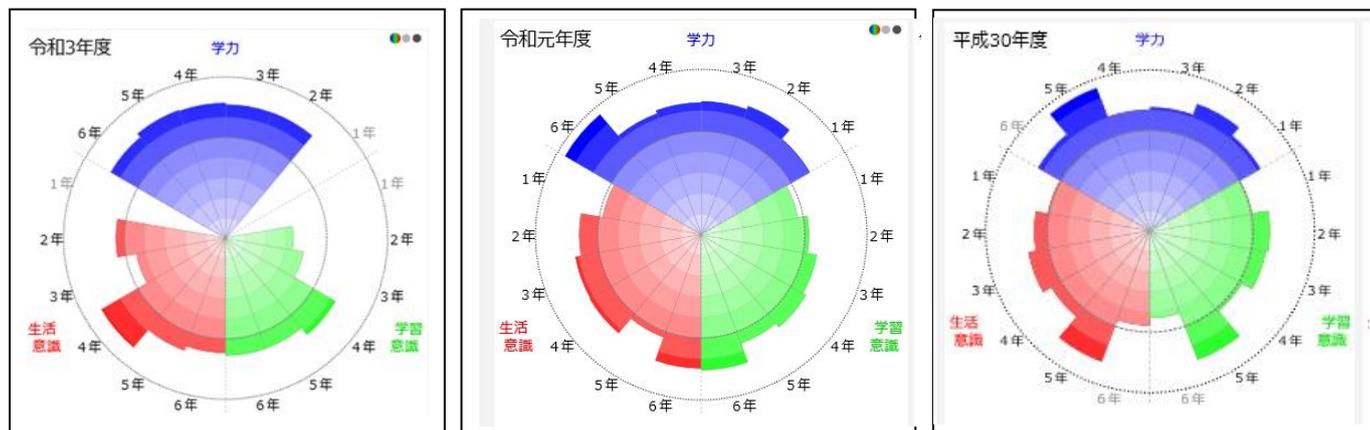
全ての学年で横浜市の平均学力を上回っている。「学習意識」や「生活意識」が低い学年が見られるが、学力は高い結果となっており、さらに個人個人の学力が向上できるように教師の興味付けや授業改善が必要だと考えられる。

問題の分析を行うと、基礎力の高さが見られるが、より思考力を付けられる授業の工夫が必要とされる。具体的な授業改善としては、主体的な問題解決の時間を保障した授業づくりや友達と学び合うことによるコミュニケーション力を育てる授業展開を意識していく。重点研究での学年チームや教科分担制による専門性を活かした授業改善により、児童一人ひとりの児童の問題発見・解決能力の向上を目指していきたいと考える。

(2) 教科学習の状況

- 国語科： 学力層Aの割合が、どの学年でも半数以上あり、基礎的・基本的な言葉の使い方をはじめ、出来事の順序を捉える力、登場人物の気持ちを想像するなどの読解力が身に付いている児童が多い。また、国語科への学習意識が高く、関心をもって学習している児童が多い。
- 社会科： 国語と同様に社会科への学習意識が高い結果となっている。どの学年も消火の工夫やまちの特徴、用水工事の方法など、資料をもとに正しく社会的事実を読み取り、理解する力がよく身に付いている。高学年では、海洋資源の保全や確保など、自分の考えを述べる問題では回答率が低い。国語の力にも関連するが、考えを表現する力が必要とされる。
- 算数科： 学習意識の高まりは、高学年にいくにしたがって高くなっている。問題解決の喜びを感じている回答が多いからであると考えられる。その学年も基本の計算や図形の理解が高いのに比べて、既習の内容を活用して目的に応じた場面で判断する力が低い結果となっている。日常の場面で活かすことができる問題を自ら考え解決することができるように授業改善をしていきたい。
- 理科： どの学年も学習意識が高く、科学的探究心が表れている結果となった。実験器具の扱いについては全体的によく理解されている一方、予想や仮説をもとに、実験や観察を通して解決の方法を発想する力が低い傾向が見られた。結果をもとに考察する時間を十分確保することが必要だと考えられる。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）



平成30年度からの変化を見てみると、学力についてはすべての学年で横浜市の平均的な学力を上回っている状況が見られる。令和3年度になると、学年間の大きな差がなくなり、どの学年も平均化している様子が分かる。

一方、「学習意識」や「生活意識」については、学年によって大きく変動している。特に令和元年度は、意識の高さが見られる。その中でも6年生に注目してみると、「学習意識」「生活意識」ともに高く、その意識の高さが学力の高さに反映されていることが分かる。特に「自己意識」と「学校生活」についても設問では、数年前からの数値がポジティブに数値が推移している。意識の高さと学力が大きくかかわっていることが見て取れる。令和3年度の学力はどの学年も平均を上回っているが、「学習意識」「生活意識」ともに低い学年もある。基礎学力が定着しているにもかかわらず意識が低いのは、学校での授業改善が必要とされていると言える。また、家庭との連携をとりながら生活意識の向上も図っていきたい。

このような結果から、学力向上のための働きかけが重要であることを教師が強く意識し、児童の「学習意識」の高まりや「分かるようになった」「学習することが楽しい」という意欲付けをねらうことが必要である。また、日常生活や教科外の活動を通じて、物事を最後までやり遂げる達成感や自分には得意なことがあるといった自己肯定感をもてるようにすることも大切だと考える。児童が自己肯定感をもって学んだり生活したりする経験を重ねることで自信をもち、意欲をもって挑戦していけるような環境をつくっていきけるようにしていきたい。このことを教職員で共通理解し、「学習意識」が学力の向上や児童に自信につながっていけるような授業改善に取り組んでいけるようにしたいと考える。